

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20H03089

研究課題名(和文) 農業農村における起業家精神の構造と発現プロセスに関する総合分析

研究課題名(英文) Comprehensive study on structure and process of entrepreneurship in agriculture and rural sector

研究代表者

木南 章 (Kiminami, Akira)

東京大学・大学院農学生命科学研究科(農学部)・教授

研究者番号：00186305

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、定量的分析の手法(パネルデータ分析の固定効果モデル)を用いて、起業家精神の成果を内部要因・外部要因によって説明するモデルから事後的に起業家精神を把握し、その規定要因を明らかにし、定性的分析の手法(複線径路・等至性モデル)として、起業家精神の養成・発現プロセスをによって解明した。さらに、農業法人を対象としたアンケート調査のデータを用いて、構造方程式モデリングを適用し、経営理念、経営戦略、経営成果、起業家精神の関係を分析し、起業家精神が高い下で、社会戦略が社会成果だけではなく経済成果をもたらす、持続可能性を高めることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

起業家精神は、農業・農村に限らず産業や地域の持続的な発展を促進する重要な要因の一つであるが、起業家精神の実証研究の多くは、統計やアンケート調査に基づく代理変数による起業家精神と経営成果の関係の測定、成功事例等に対する実態調査分析であり、起業家精神の発現プロセスの影響要因に関する定性的説明および、起業家精神が経営や地域にもたらす成果に関する定量的説明が不十分であった。本研究では、新たな分析方法を構築し、農業・農村における起業家精神を総合的に把握すると同時に、その構造と発現メカニズムの解明し、新たな理論と有効な戦略の構築に寄与している点に、学術的意義および社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：This study used quantitative analysis (fixed effect model of panel data analysis) to grasp entrepreneurship retrospectively from a model that explains the results of entrepreneurship by internal and external factors, and clarified its determining factors, and used qualitative analysis (Trajectory Equifinality Model) to elucidate the process of cultivating and expressing entrepreneurial spirit. Furthermore, using data from a questionnaire survey of agricultural corporations, structural equation modeling was applied to analyze the relationship between management philosophy, management strategy, management results, and entrepreneurship, and it was revealed that when entrepreneurship is high, social strategies bring about not only social results but also economic results, and increase sustainability.

研究分野：農業経営学

キーワード：起業家精神 農業農村 持続可能性

### 1. 研究開始当初の背景

起業家精神は、イノベーションの実現に必要な態度、発想、能力であり、先進国、発展途上国を問わず、農業農村の持続的な発展を促進する重要な要因の一つである。しかしながら、起業家精神の実証研究の多くは、統計やアンケート調査に基づく代理変数による起業家精神と経営成果の関係の測定、成功事例等に対する実態調査分析であり、起業家精神の発現プロセスの影響要因に関する定性的解明および、起業家精神が経営や地域にもたらす成果に関する定量的解明が不十分である。起業家精神に関する国際的な調査として Global Entrepreneurship Monitor (GEM)があり、同調査を基にした研究が実施されてはいるものの、上記の問題は解決できていない。したがって、新たな分析方法を構築し、農業農村における起業家精神を総合的に把握すると同時に、その構造と発現メカニズムの解明し、新たな理論と有効な戦略の構築が求められていることが、本研究の学術的背景にある。

### 2. 研究の目的

起業家精神は、農業農村の持続的な発展を促進する重要な要因であるが、関係する要素が複雑で直接把握することが困難であるとともに動的に変化する特性があるため、その実態解明は不十分であった。本研究は、定性的分析と定量的分析の方法を融合した新たな分析方法を用いて、農業農村における起業家精神の構造と発現プロセスを解明し、農業経営および農村振興の発展に資する理論と戦略を構築することを目的とする。具体的には、課題「農業農村における起業家精神の定量的解明」、課題「農業農村における起業家精神の発現プロセスの解明」、課題「農業農村における起業家精神の総合分析」の3つを課題とする。本研究の目的は、定性的分析と定量的分析の方法を融合した混合研究法に基づく新たな分析方法を考案し、農業農村における起業家精神の構造と発現プロセスを解明し、農業経営および農村振興の持続的な発展に資する理論と戦略の構築を行うことである。

### 3. 研究の方法

- (1) 既往研究のサーベイに基づいて課題解決のための分析枠組みを構築した。
- (2) 定量的分析においては、新規開業および事業多角化を需要要因と供給要因から説明する計量分析を行うためのパネルデータを構築し、パネルデータ推計を実施し、固定効果モデルの妥当性を検証するとともに、計測された固定効果推計値から事後的に起業家精神を定量的に把握する方法を確立した。そして、固定効果推計値として把握した起業家精神に影響する要因を探索し、要因の影響力を定量化し、その特質を明らかにした。また、企業的な農業経営の多年度の財務データを収集しパネルデータを作成し、経営成長の実態を計量的に明らかにした。
- (3) 定性的分析においては、高い起業家精神を備えていると考えられる経営者による事業発展の事例を収集し、経営者の起業家精神の特質と発現プロセスの事象を整理した。収集した定性的データに対して、複線径路・等至性モデル(Trajectory Equifinality Model: TEM)を適用し、起業家精神の発現における当至点(EFP)を設定し、分岐点(BFP)を判別するとともに、経路決定に影響する社会的ガイド(SG)と社会的方向付け(SD)の特定を通じて、発現プロセスを解明した。
- (4) 定量的分析の結果と定性的分析の結果を総合し、起業家精神の発揮を通じて、農業・農村の持続可能性を実現するための条件に関するモデルを共有価値の創造(Creating Shared Value: CSV)に基づいて構築した。

### 4. 研究成果

(1) 本研究における起業家精神の捉え方は、図1に示したGEMの枠組みに依拠しており、社会経済的な背景として、具体的な経済成果に至るまでの過程の中に起業家精神を位置付けている。以上を基に計量分析の枠組みに当てはめると図2のようになる。都道府県を地域単位として、新規

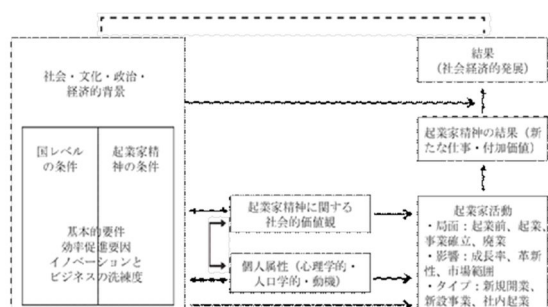


図1 GEMの枠組み

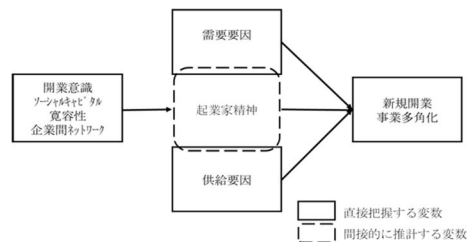


図2 分析の枠組み1

開業および農業経営の多角化を事業に関する需要要因と供給要因によって説明するパネルデータ分析（固定効果モデル）によって、地域レベルの起業家精神（固定効果推計量）を計測した。

(2) 固定効果推計量に影響する要因変数として、個人の開業意識、企業間ネットワーク（企業密度）、ソーシャル・キャピタル（ボンディング指数、ブリッジング指数）、寛容性（ジェンダー・ギャップ、外国人割合、自殺率）を作成した。また、農業における新規開業および事業多角化に関しては、農業集落内での活動状況、および活性化のための活動状況もソーシャル・キャピタルの要因として取り上げ、以上の変数と固定効果推計量との相関係数を計算した。

分析結果は以下のとおりである。全産業における新規開業では、開業意識が高く、企業間ネットワークが強く、そして、寛容性が高い地域において、起業家精神が高いことを示された。以上の結果は事前に予想された符号と合致するものである。ただし、ボンディング指数は負で有意であることから、ボンディング・ソーシャル・キャピタルの排他的特質が作用しているものと考えられる。

それに対して、農業における新規開業では、全産業の場合と大きく異なる結果となった。まず、開業希望者割合と企業密度の符号は負であった。このような違いが生じる原因のひとつには、農業の相対的な収益性が低い下で、起業家精神の高い人々が農業以外の他産業を優先的に選択し、事業を展開している可能性が考えられる。また、ボンディング指数とブリッジング指数の符号が正であることに加え、集落機能および、いくつかの活性化のための活動の符号も正であった。さらに、寛容性に関する変数の符号も全産業の場合とは異なり、寛容性の低さが起業家精神の高さにつながるようになった。以上を総合的に考えると、農業における新規開業は、排他性の強い地域社会の強力なソーシャル・キャピタルに支えられた集落の機能や活動によって促進されていると解釈することができる。同様の関係は、農業経営の事業多角化（特に農産物加工）においても見ることができる。ただし、直接販売では、相関係数が有意である変数は少なく、開業意識、ソーシャル・キャピタル、寛容度との関係は見られず、集落の機能や活動との関係も弱い。これは直接販売の形態には、新規開業や農産物加工と比べて比較的容易に実施することができるものも多いのではないと思われる。集落営農をはじめとして農業経営の法人化、および農産物加工や直接販売が、行政の主導や政策支援、および地域おこしの一環として実施される事例が多いことがこれらの結果に影響していると考えられる。したがって、農業の持続可能性の実現には、現象としての新規開業や事業多角化ではなく、個のレベルの起業家精神を発揮させるソーシャル・キャピタルの蓄積を促進する政策が重要である。

(3) 農業・農村の持続可能性を高めるためには、社会的成果を実現しながら、同時に経済的成果を実現することが重要であり、CSV（Creating Shared Value：共有価値の創造）が有効な戦略となりうる。そのため、日本の農業法人を対象として、経済成果、および社会成果の特質とその決定メカニズムを明らかにした。まず、農業法人を対象としたアンケート調査を実施し、調査結果のデータに基づいて、農業法人の経済的成果と社会成果（社会的課題解決、社会的評判、多面的機能、効率的資源活用の4側面）を把握した。

先行研究を基に、農業法人の経済成果および社会成果を規定する分析モデル（図3）と仮説を設定した。

仮説1：経営戦略（競争戦略、社会戦略）は経営理念、経営構造、起業家精神によって規定される。

仮説2：経営戦略（競争戦略、社会戦略）は経営成果（経済成果、社会成果）を向上させる。

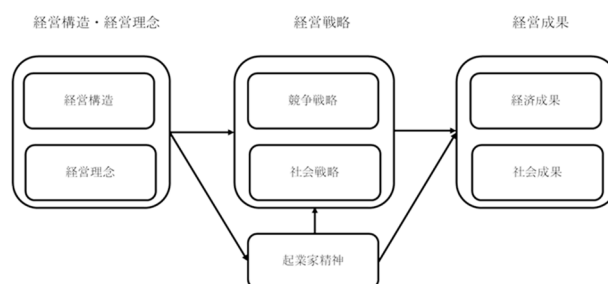


図3 分析の枠組み2

農業経営における経済成果と社会成果の関係を分析するうえで、必要となるデータは整備されていないため、本研究ではアンケート調査によって、農業法人の事業成果とその要因に関するデータの収集を行った。アンケート調査には、日本農業法人協会「農業法人実態調査」の調査票内に独自の質問項目を設定して実施した。実施期間は2021年10月～2022年3月で、調査票配布件数2,063で回収件数は1,490（回収率72.2%）であった。このうち、本研究の質問項目に回答漏れがない972件の回答（有効回答率65.2%）を分析に用いた。

調査結果から、経済的成果と社会的成果の変数を作成し、経済的成果と社会的成果を両立する経営が少ないことを明らかにした。また、経営構造、経営理念、起業家精神、競争戦略、社会戦略、経済的成果、社会的成果の変数を作成し、構造方程式モデリングによって、これらの変数と経済的成果および社会的成果の変数との間の関係を明らかにした。計測結果に基づくパス図を図4に示した。

以上の結果から、農業法人における CSV 経営の成功に関して、起業家精神の役割が極めて大きいことが示された。特に、社会活動を経済成果に転換するうえで起業家精神は不可欠である。そして、起業家精神は経済成果や社会成果の向上に寄与する経営戦略を促進する効果も有している。したがって、農業法人の持続的な発展を実現するためには、起業家精神を醸成する環境と施策が重要となる。また、起業家精神に影響する要因としては、重要な要因は経営構造ではなく、経営理念であることから、農業法人は事業の拡大よりも経営理念の確立と浸透に努めることが、持続的な発展に寄与すると考えられる。

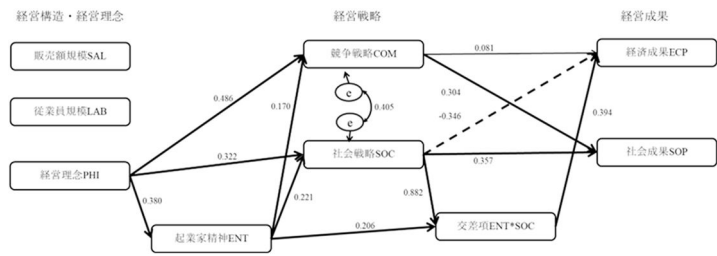


図4 SEMのパス図

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 木南章、木南莉莉、古澤慎一	4. 巻 51
2. 論文標題 起業家精神が新規開業に与える影響に関する研究：都道府県データによるパネルデータ分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域学研究	6. 最初と最後の頁 337-351
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2457/srs.51.337	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木南章、木南莉莉、古澤慎一	4. 巻 52
2. 論文標題 日本農業における新規開業と起業家精神	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 地域学研究	6. 最初と最後の頁 197-213
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2457/srs.52.197	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kinami Lily、Furuzawa Shinichi、Kinami Akira	4. 巻 7
2. 論文標題 Role of creative classes in sustainable agricultural development: Focusing on creating shared value in rural Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 、Asia-Pacific Journal of Regional Science Vol.7、2023、903-934 DOI:10.1007/s41685-023-00282-x	6. 最初と最後の頁 903-934
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s41685-023-00282-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件／うち国際学会 3件）

1. 発表者名 木南章、木南莉莉、古澤慎一
2. 発表標題 日本の農業法人におけるCSV経営と起業家精神に関する実証的研究
3. 学会等名 日本地域学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 木南章、木南莉莉、古澤慎一
2. 発表標題 日本の農業法人における共有価値創造の可能性と課題 - 構造方程式モデリングの導入 -
3. 学会等名 アジア農業経済学会国際大会 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kiminami Akira, Kiminami Lily, Furuzawa Shinichi
2. 発表標題 Entrepreneurship for new firm formation and business diversification in Japanese agriculture
3. 学会等名 Pacific Regional Science Conference of the RSAI (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 木南章、木南莉莉、古澤慎一
2. 発表標題 日本の農業法人における事業成果の要因分析－農業経営における共有価値創造の探索 -
3. 学会等名 日本地域学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kiminami Akira, Kiminami Lily, Furuzawa Shinichi
2. 発表標題 Determinants of new firm formation in Japan: New methods for the analysis of entrepreneurship
3. 学会等名 World Congress of the RSAI (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木南章、木南莉莉、古澤慎一
2. 発表標題 日本農業における新規開業と起業家精神
3. 学会等名 日本地域学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木南章、木南莉莉、古澤慎一
2. 発表標題 新規開業における起業家精神に関するパネルデータ分析
3. 学会等名 日本地域学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	木南 莉莉  (Kiminami Riri)  (40272132)	新潟大学・自然科学系・教授   (13101)	
研究分担者	古澤 慎一  (Furuzawa Shinichi)  (40588315)	新潟大学・自然科学系・助教   (13101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------